

第8回 まちづくり市民協議会会議録

日時：平成28年5月23日（月）18時30分～

会場：市役所3階大会議室1・2号

出席者 委員 21名（欠席14名）
事務局 7名
職員PT 6名

1 会長あいさつ

公私共に忙しい中出席いただき、御礼申し上げます。暑い日が続いているが、皆様はご健勝にお過ごしのことと思う。

本日は、まず、第6回及び第7回の会議時に行ったワークショップの総括について、次に、第2次光市総合計画について、そして最後に光市まち・ひと・しごと創生総合戦略について事務局からの説明の後に、皆様からご意見やご質問等をいただくこととなっている。本日も委員の皆様から忌憚のないご意見をいただき、この会が成功裏に終わるようご協力をお願いしたい。

2 事務連絡

事務局より議事進行の考え方等について説明

3 議題

(1) ワークショップの総括について

株式会社ぎょうせいより資料に基づいて説明

【質疑】

●委員

「住みやすいまちづくり」という観点はすごく伝わってくるが、「産業」や「雇用」といった視点が入っていないのではないかと。どこかに入っているなら教えてほしい。

●ぎょうせい

意見交換の中で出た内容だけをここで整理させていただいたところである。他の「強み」や「弱み」から引っぱってくれば雇用も産業も出てくるとは思うが、あえて私共のほうでは整理しなかった。今後そういった意見が出てくれば事務局の方で整理をされることになると考えている。

(2) 第2次光市総合計画について

事務局より資料に基づいて説明

【質疑】

●委員

J R光駅について、プラットホームが低く、段差があるため、事故が起きることを危惧している。年をとると非常に恐ろしい。J Rは民間企業であるが、そのような危険箇所の解消を市として要望することはできないか。市民の交通を守るという観点から、解消しなければならないと考えているが、いかがか。

●事務局

具体的にJ R光駅の問題点をご指摘いただいたが、基本的にはJ Rの方で対応していただくこととなる。ただ、J R光駅については1日あたりの乗降客数が3,000人を超えており、平成32年度までにバリアフリー化することが事業者の義務として求められている。

ご指摘のプラットホームの他にもエレベーターの設置などが課題となっているが、駅のバリアフリー化だけでなく、今後の光駅のあり方について、現在策定中の第2次光市総合計画の中で一定の方向性を示していかなければならないと考えている。

●委員

J Rは市に対して負担金を求めてくると思うが、それに対して市民のために実現してほしいと思う。エレベーターも必要だが、やはりまずはホームである。事故が起こればすぐに対応するだろうが、そうではなくて早めの対応をお願いしたい。危険であるので、一度現地を確認してほしい。

●事務局

今回いただいたような意見があったことはJ Rの方にも伝えたい。

●事務局

ワークショップの総括の中に雇用の視点がないというご意見に対して補足させていただく。

これは先ほどの説明にもあったように、話し合いの中で出た意見のみを整理したのであるが、20年後のまちの姿を示すための参考にしようとするものである。ワークショップは限られた時間であり、全ての意見を網羅できていないので、足りない部分については、本協議会における話し合いや、現在実施している市民対話集会の中で出た意見等についても参考にしながら策定作業を進めていきたい。

●委員

先ほどご説明をいただいたが、大企業からの税収だけで市の財政が成り立っているのではなく、市民一人ひとりの所得を増加させる必要があると考えるが、そのような視点が抜けているのではないか。大企業だけに頼るのではなく、中小企業の活性化を図る必要があると思う。

●事務局

現在、総合計画を策定しているが、昨年度は総合戦略の策定にも関わっていただいたところである。地方創生の一つのポイントは「稼ぐ力」をいかに地域につけさせるかと言われており、総合戦略においても、産業振興や創業支援、第六次産業化の振興といった視点を入れたところである。難しい面もあるため、一朝一夕に結果が出るものではないが、色々な視点で種を蒔く作業が総合戦略であろうと思う。そのような形で、大手企業に頼ることから地域の中から収入が得られるようにするという視点で総合戦略を策定したところであるが、同じように総合計画においても取り入れていきたいと考えている。

●事務局

確かに光市は二大企業のお膝元であり、平成19年から20年にかけて年間の法人市民税が43億円あった時期もある。それが平成28年度の税収が約4億、10分の1にまで落ち込んでいる。大企業の景気状況によって市の財政が左右されることはやむを得ないことは理解しており、企業からの税収が光市の貴重な財源となっていることを理解した上で、それ以外の業種に、農業や漁業も含めていかに多様化していくための取り組みを進めているところである。

特にこれから力を入れようとしているのが創業支援であり、金融機関のご理解・ご協力をいただきながら連携して取り組んでいる最中であり、総合計画の中でも整理していきたい。

●委員

光市は、他市と比較して遅れているため、もっと中小企業を支援していただきたい。

●委員

10年前と市民ニーズが一緒であり、企業の誘致や雇用の確保が重要である。光市は投資的経費が少なく、補助費等が多い。補助費等を減らして投資に回さないと、公共施設の更新などができなくなる。本庁舎の建替えも話が進んでおらず、次の10年を考えた時に重要であると考えがいかがか。

●事務局

投資的経費が少ないとのご指摘について、額ではなく割合は確かに少ない。下水道や病院事業への繰り出しなど、どうしても補助費等が多くなっている。この2つだけで20億あるが、予算規模200億円のうち20億も補助費等として出て行くため、どうしても投資に回せるお金が少なくなり、割合が低いという財政上の特徴がある。今後もバランスをしっかりと踏まえて運営を行っていきたい。

本庁舎の問題について、先の熊本地震を受けて、安全・安心の拠点となり司令塔となる

本庁舎の耐震性が大きな課題となっている。ご指摘のとおり現在のところ、本市においては計画もないが、現在、公共施設の再編やあり方等について検討を行っており、これまでは災害時の避難所となる教育施設等を中心に投資してきたところである。

市役所本庁舎は昭和43年の建設であり、今から何十年も維持できないことは明らかであるので、何らかの形で計画を考えていく時期であると思っている。ただ、他の事業もあるので、優先順位も考慮しながら、この問題についても検討していきたい。

●委員

今の若い人の所得では、子どもを二人育てて、大学を卒業させてから、自分たちが老後生活するための資金を考えると、足りないのではないか。これは行政だけの問題ではないが、どうやって稼いでいくかを考えなければならないと思う。

●事務局

行政の役割は、計画等を策定し、その中でどのような経済の活性化が図れるかを示し、実施していくことである。そのような中で、創業支援や農業の活性化など、色々な考え方はあるが、既存の産業に加えて、そのような施策を積み重ねていくことになると考えている。

(3) 光市まち・ひと・しごと創生総合戦略（交付金活用事業分）の進捗状況について
事務局より資料に基づいて説明

4 その他

○ 事務局から今後の予定等について連絡

- ・次回会議では「第2次光市総合計画」について、もう少し具体的な内容を示すこととし、開催時期は8月下旬を予定している
- ・平成28年度市民対話集会の開催についてご案内